

立命館大学生のプレゼントに関するアンケート調査 報告書

経営学部 1333010010-3 後小路 武

経営学部 1333020006-0 奥田 好朗

目次

はじめに

調査情報

調査報告

生活費の内の交際費の割合

二人で過ごすイベント

プレゼントを贈るイベント

プレゼント費用はどうやって捻出？

具体的には何をプレゼントしているのか

それぞれにかける金額は

実際もらったものと、本当は欲しいものとのギャップは

交際相手の選定基準に「経済力」は含まれるか

まとめ

はじめに

高校生から大学生になり、大きく変化することは多々存在する。その中の一つとして、「異性との交際にかかる金額」が挙げられるのではないだろうか。アルバイトなどにより、自由に使えるお金が増加した中で、交際相手に当てられる金額は、高校生と大学生では大きく異なる。

交際相手にかかる金額の中でも、とりわけプレゼントにかかる金額に関してが、如実にそのことを表しているのではないだろうか。事実、自身の経験に基づいて考えてみると、小遣いの寄せ集めで必死にやり繰りしていた過去と、やはり大きな違いがある。

しかし、それはあくまで自分自身の経験に基づいた予想である。そこで今回、以前から気になっていた「一体立命館大学に通う学生は、交際相手へのプレゼントにどのようなものをあげているのか。また、どのくらいの費用をかけているのか。また、男女間の格差はどの程度のものか。」という疑問をこのアンケート実習を通して明らかにすることにした。それを読み解くことで、立命館大学生のお金に関する意識についても考えてみることにする。

以下本報告書は、異性との記念日意識に関する部分を始まりとし、そこから本質となるプレゼントに関する具体的データを分析し、上記設問に関する解答を導出して行こうと思う。

調査情報

まず、基本情報として、調査に当たっての調査対象、調査方法、有効回答数、調査日程は以下の通りになっている。

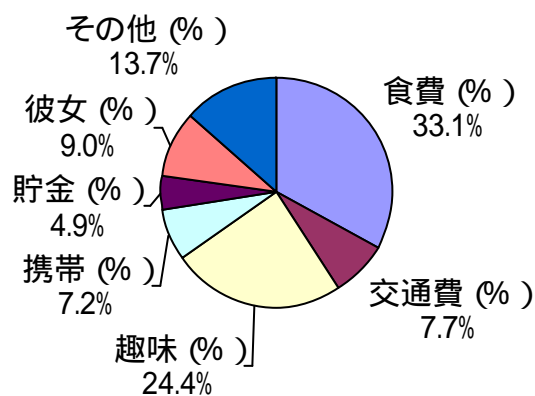
- ・調査対象 立命館大学両キャンパスにおいて学生を不作為に選定。
- ・調査方法 選択形式・自由回答形式のアンケートに対し、その場で記入してもらった。
- ・有効回答数 男性 74 名（BKC：43 名 衣笠：31 名）
女性 76 名（BKC：42 名 衣笠：34 名）
計 150 名
- ・調査日程 6 / 27（月）～7 / 1（金）

調査報告

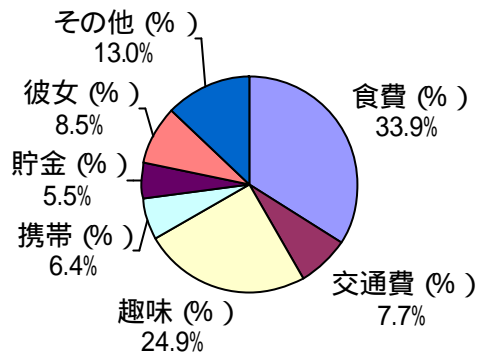
生活費の中の交際費の割合

まず、一ヶ月間の生活費に関し、どのような割合で費用を振り分けているかを、百分率法で調査した。交際相手にかける費用がどの程度の割合を占めているかを知ることが、この設問の狙いである。。

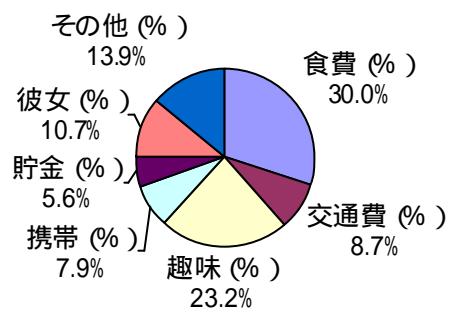
衣笠男性 生活費割合



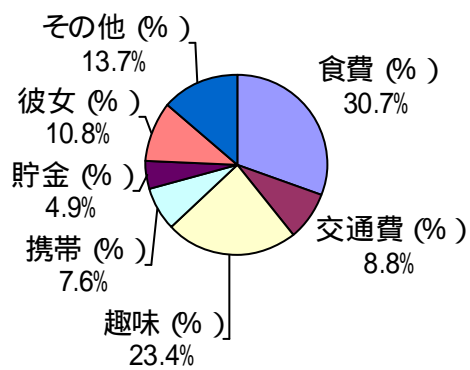
BKC男性 生活費割合



衣笠女性 生活費割合



BKC女性 生活費割合

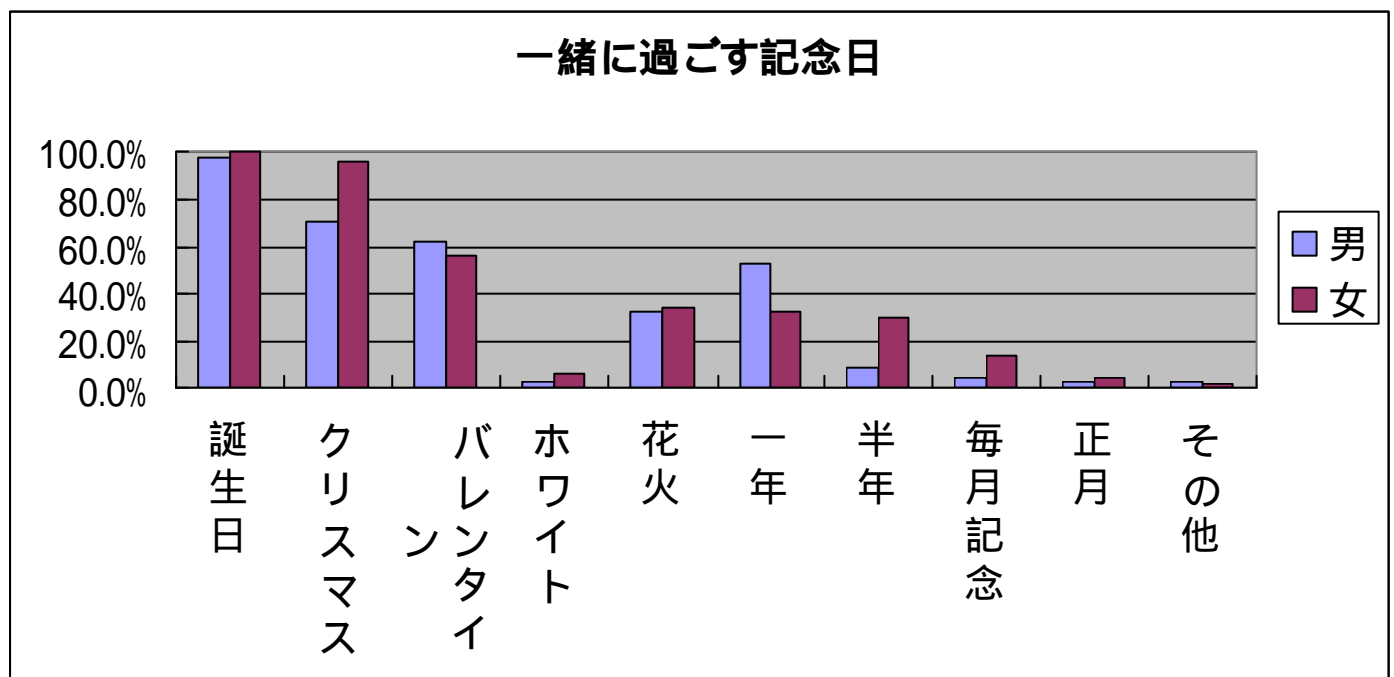


一ヶ月の生活費における交際相手にかける費用は、若干女性の方が高いものの、おおよそ 10%前後である、ということがわかる。このことから、普段のデートなどに関しては、あまり費用をかけない、というのが立命館大学生の傾向だ、ということがわかる。

ではここで、普段の状況を把握した上で、主にこういったイベントや記念日に二人で過ごしたいと考えており、またプレゼントという特別な費用をかけるのかを見ていくことにする。

二人で過ごすイベント

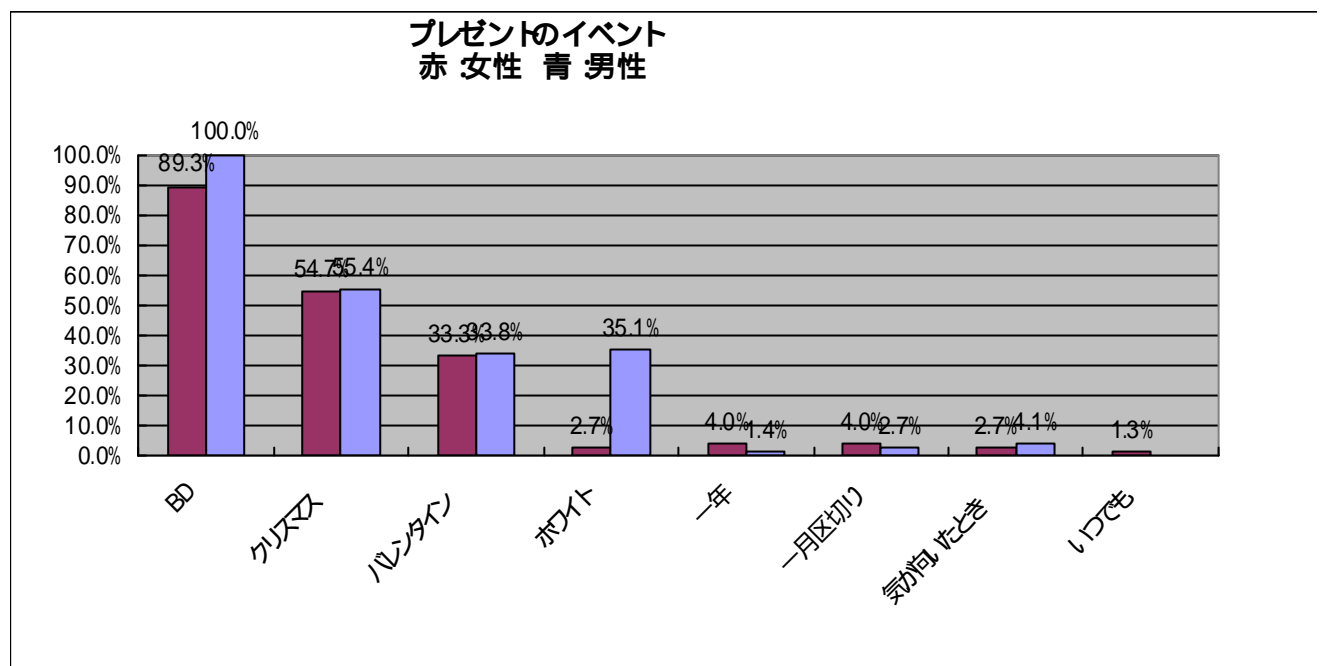
まず、二人で過ごしたいと思っているイベント・記念日はどのようなものか、男女を比較して見ていく。



男女共に、誕生日に関しては一緒に過ごすことに対する意識が高いことがわかる。また、全体を通し女性の方がより各記念日に対し、一緒に過ごしたいという意識が高い。クリスマス、月ごとの付き合い始めた日付に関し、重要なイベントと捉える傾向がある。

プレゼントを贈るイベント

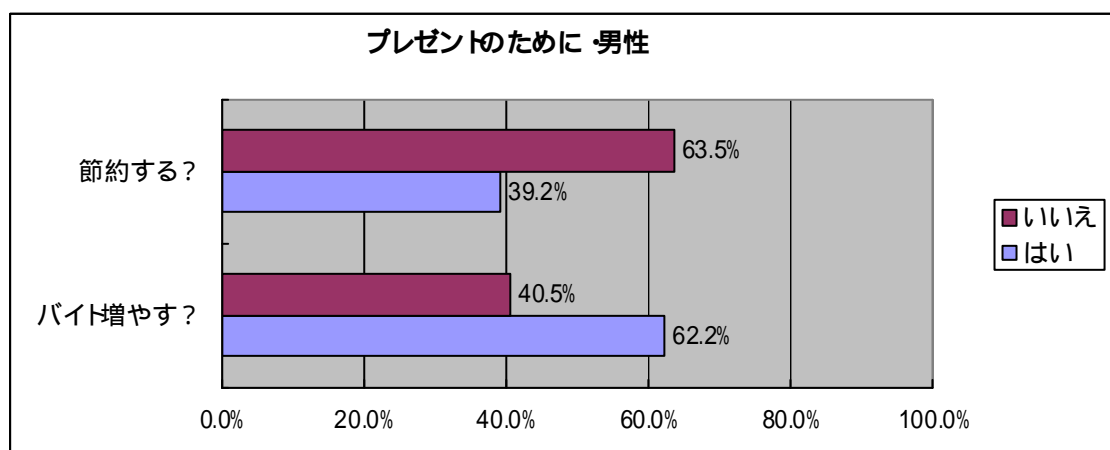
次に、その中でプレゼントをあげる日はどのようにになっているのかを男女ごとに調査した。結果は以下の通りである。



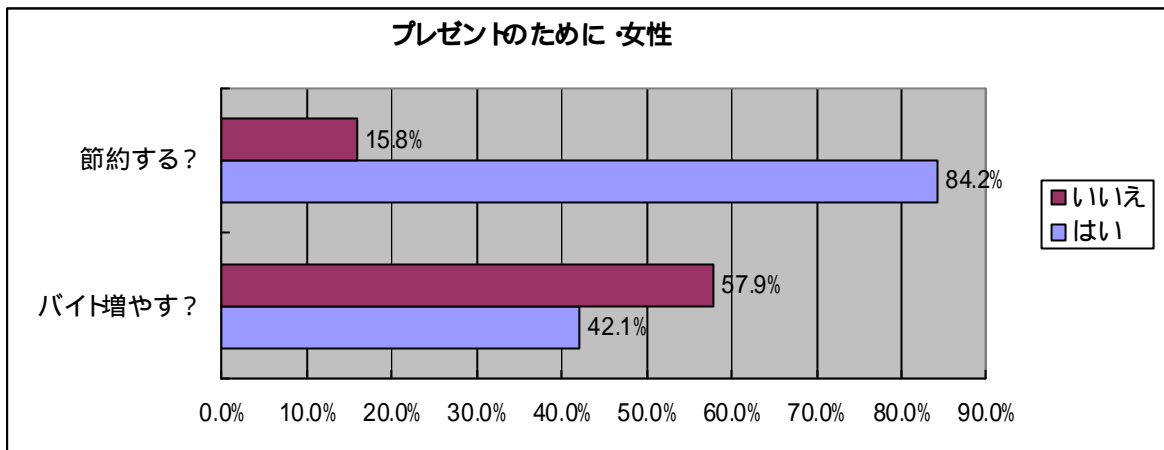
男性の方がプレゼントをマメにあげていることが読み取れる。そして、誕生日、クリスマスはプレゼントをする重要なイベントと言ってよい。また、バレンタインデーのお返しを、ホワイトデーではなく、バレンタインデーその日にしているという傾向も高いことがわかった。

プレゼント費用はどうやって捻出？

一年に数少ないプレゼントにおいて、その費用をどのような方法で捻出しているのだろうか。考えられる方法は3つである。普段通りの生活費から捻出、収入を増やして捻出、費用を減らすことにより捻出、の3通りである。



男性は、費用を減らすより収入を増やすことでプレゼント代を作る傾向が高い。

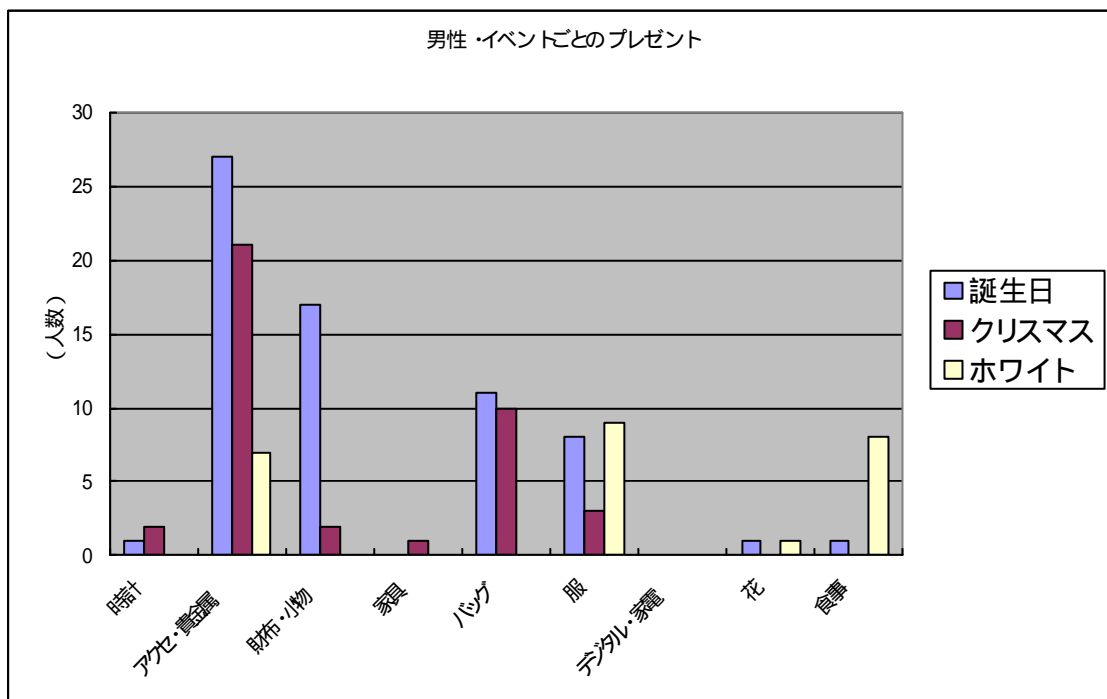


一方で女性は、逆に普段の生活費を節約することでプレゼント代を捻出する傾向が高い。男女のプレゼントに対する姿勢の差がここに表れている。

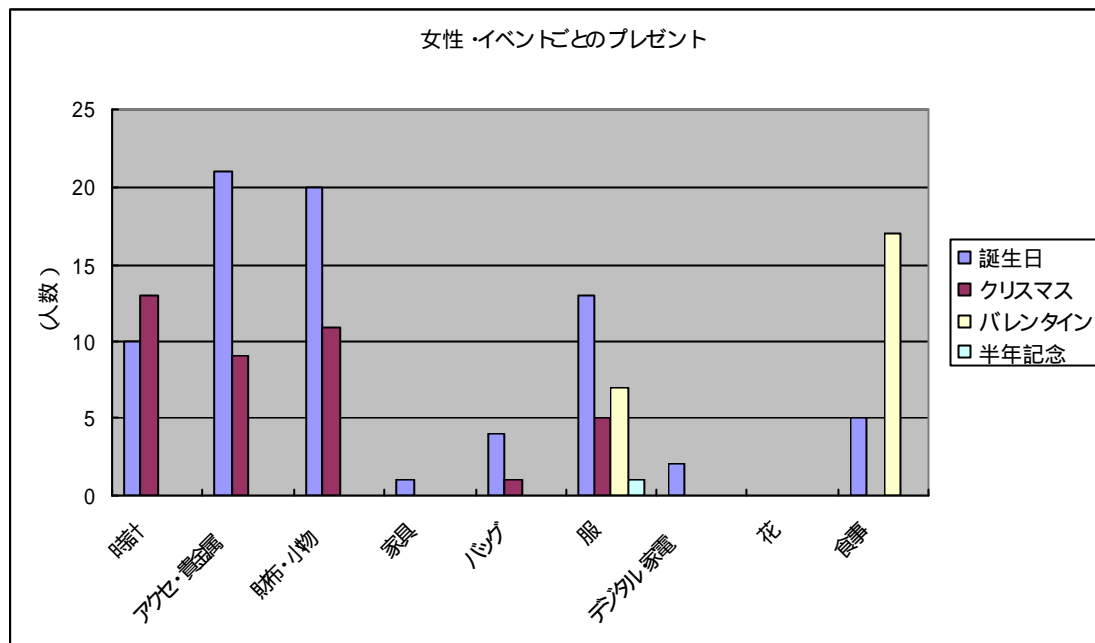
- ・男性 プレゼントに「働いて手に入れた汗の結晶」
- ・女性 プレゼントは「耐えた上の我慢の結晶」

具体的には何をプレゼントしているのか

では実際にはどのようなものをプレゼントしているのかを、男女別に見てみることにする。また、特に回答の多いイベントごとにその内訳を集計した。



男性から女性へのプレゼントで人気が高いのは、アクセサリ類、バッグ、服、財布などである。これらの共通点として、「普段身につける、もしくは持ち歩くもの」が人気と言える。



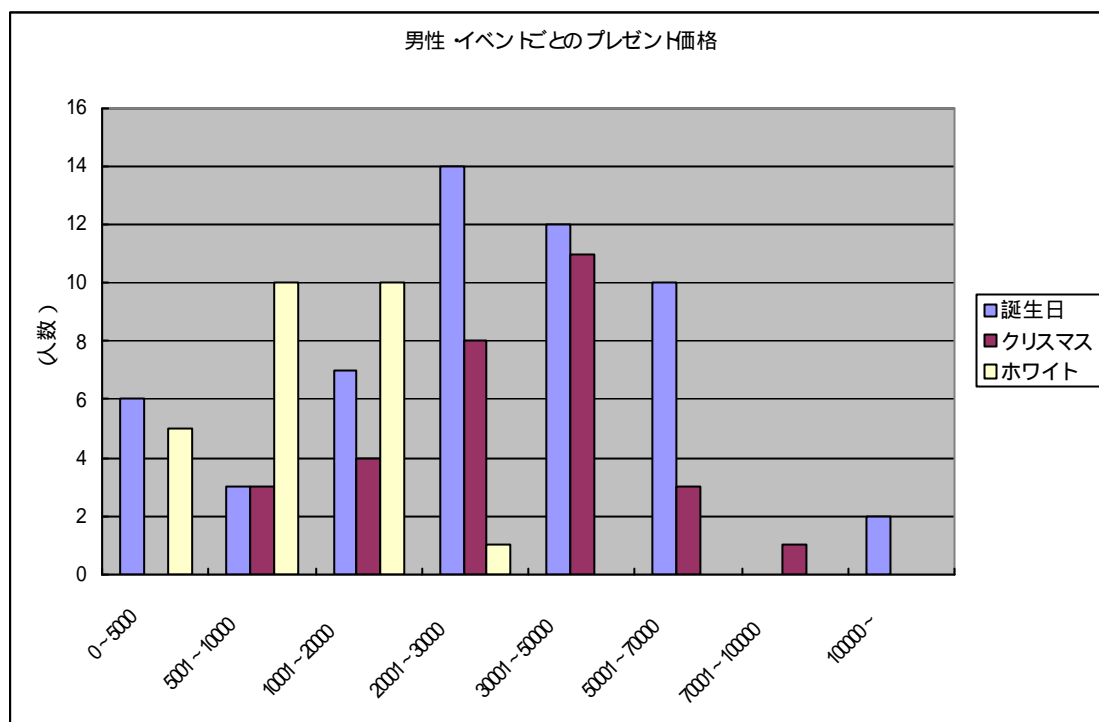
一方で女性から男性へのプレゼントであるが、こちらは女性へのプレゼントと同様のものが人気であるのに加え、時計への人気が高いことが見て取れる。

以上の結果からわかることは次の通りである。

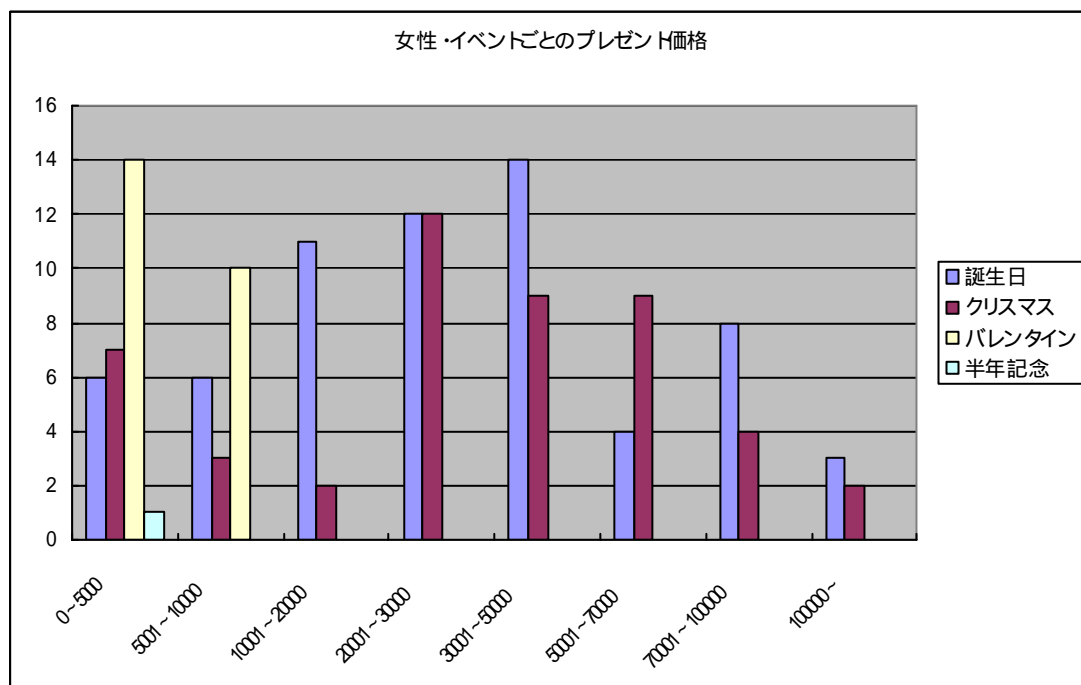
- ・男女共に、アクセサリ類、財布・小物、服はプレゼントの定番。
- ・男性は時計、女性はバッグに関心が高い。

それぞれにける金額は

では、一体どれくらいの金額をプレゼントにかけているのだろうか。



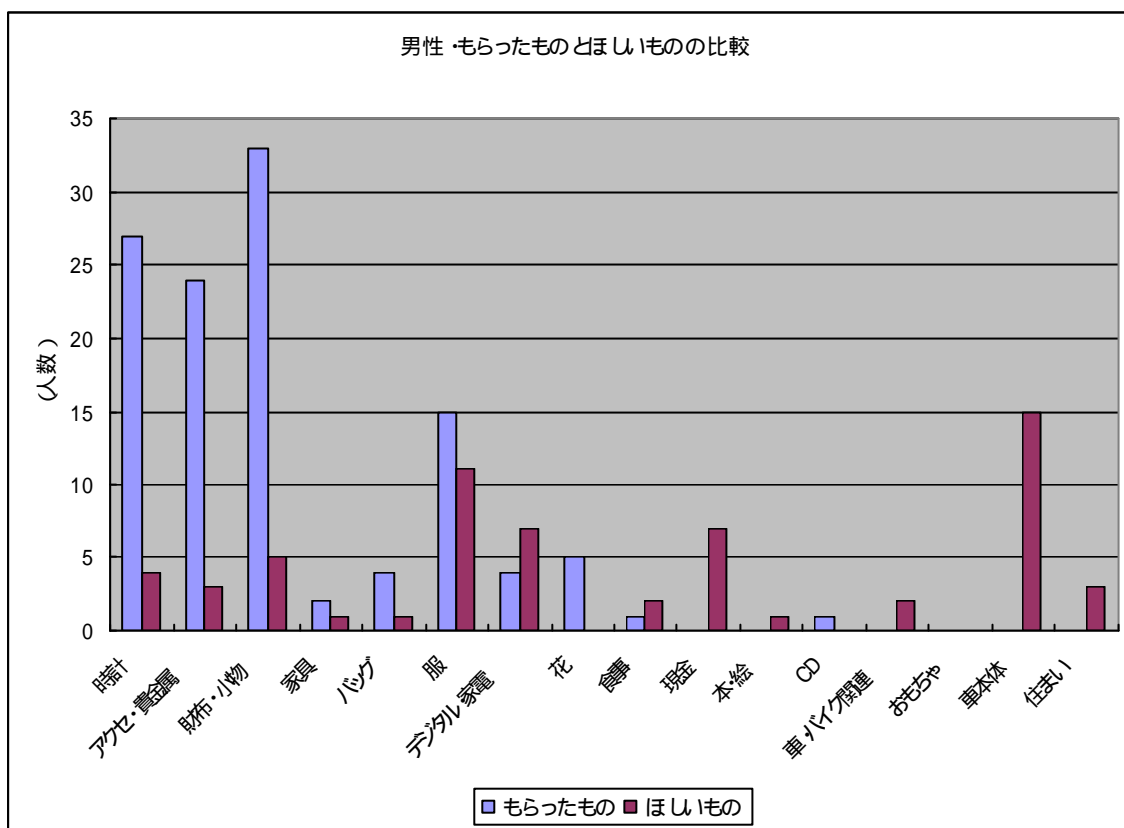
男性の結果は以下ようになった。誕生日に特に費用をかける傾向が高いことがわかる。誕生日というイベントに対する意識の高さは、この表にも見て取れる。



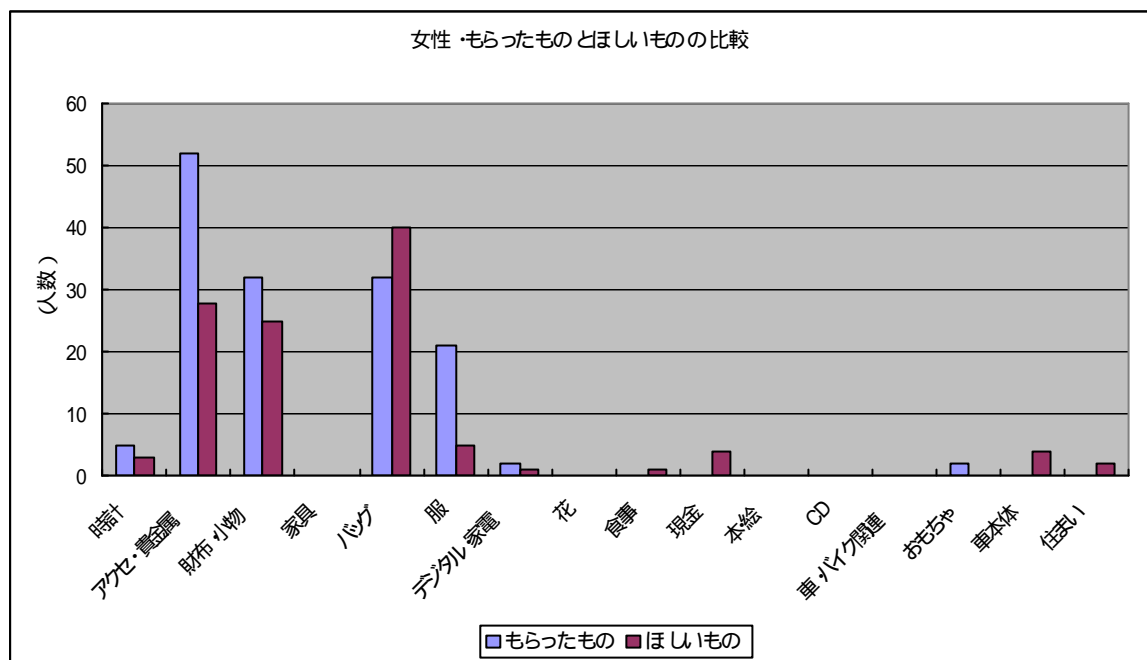
一方こちらは女性の集計結果であるが、特筆すべきは全体的に男性より費用をかける傾向にあることだ。一般的には逆の結果が予想できるが、立命館大学生に関しては、一般的意見とは逆の、女性の方がプレゼントに費用をかける、という結果になった。

実際もらったものと、本当は欲しいもののギャップは

では、あげたものと逆に実際もらったもの、そして本当はプレゼントして欲しいと思っているものとの比較を男女別で見てみることにする。



男性のもらったもの、女性のあげたものはほぼ傾向として一致している。だが、本音の部分でプレゼントして欲しいものとして、無理難題と言えるようなものが多いのが特徴的である。自動車や住まいなど、手の届かないものへの憧れが強いと言える。

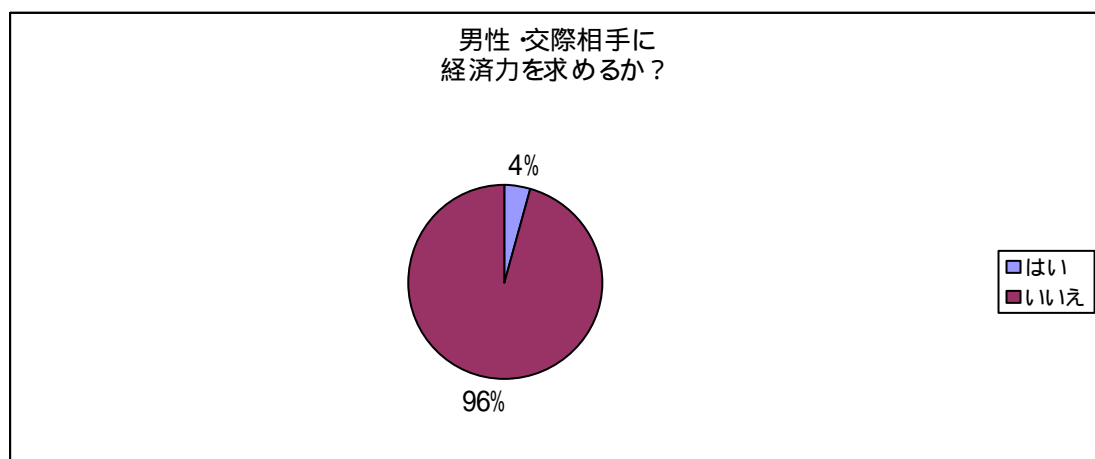


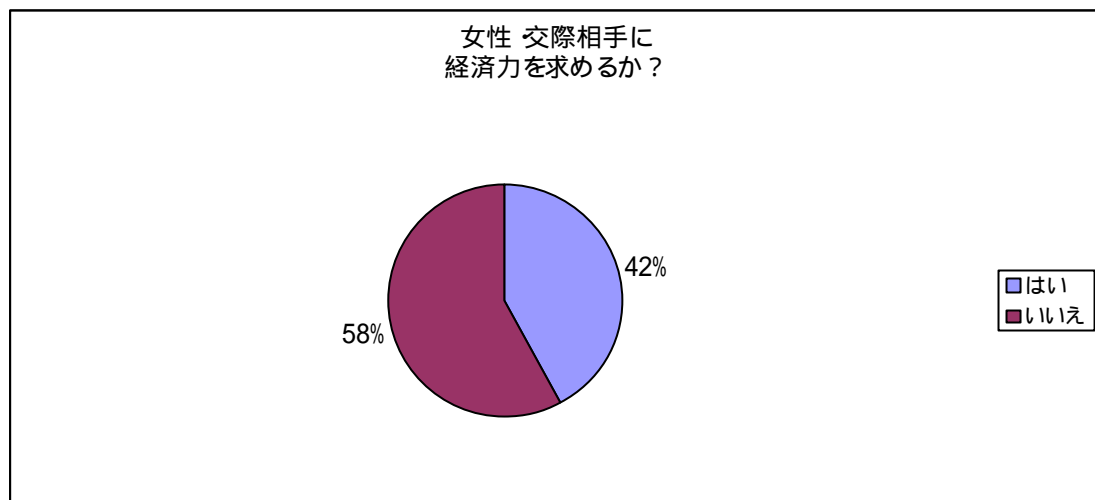
女性の集計結果をみると、本音の部分で欲しいものと実際もらったものとが非常に近い結果となっている。これは、実際欲しいものを男性の手の届く範囲で要求し、上手に手に入れている、ということだと推測できる。女性の方がより合理的にプレゼントという機会を利用しているのだ。

交際相手の選定基準に「経済力」は含まれるか

プレゼントにおける価格調査に絡め、もう少し「お金」と交際に関する部分を考えてみることにする。

そこで、「この人と付き合おう。」と考えるにあたり、その人の「経済力」は選定基準に入るか、ということについて調査することにした。





ここでは男性と女性の違いに大きな差が出た。これは本当はプレゼントして欲しいと思っているものについてのデータと関係がありそうだ。

男性は、プレゼントして欲しいと言ってもあくまで理想として思っているものが多く、実際そこまでプレゼント費用に対する欲が小さい。しかし女性は、現実的な範囲でプレゼントを捉えていることが多く、そのために実現可能性を相手の「経済力」に見ていると言えるだろう。

まとめ

立命館大学に通う学生は、誕生日・クリスマスをプレゼント二大イベントとし、それらに関しては費用を大きくかける傾向が高かった。

女性は、プレゼントに対し特別な意識を持っており、各イベントにおいて渡す側では積極的に費用をかけ、受ける側では現実的に欲しいものを手に入れる、という形で臨んでいることがわかった。

一方男性は、記念日意識が女性に比べ低いが、相手の欲求を満たすために「働く」ということが自然に根付いていた。非現実的な欲求は、理想を追い求める姿勢の現れであるが、本音の部分では異性に対し金銭以外の部分に魅力を求めることも男性の特徴である。

今回このプレゼントに関するアンケートを通じ、単にどのようなものをプレゼントとしているか、また費用をどの程度かけているか、ということに止まらず、深層的な性差による異性への見方の意識差にまで踏み込むことができた。その意味で非常に有意義なものとなったように思う。